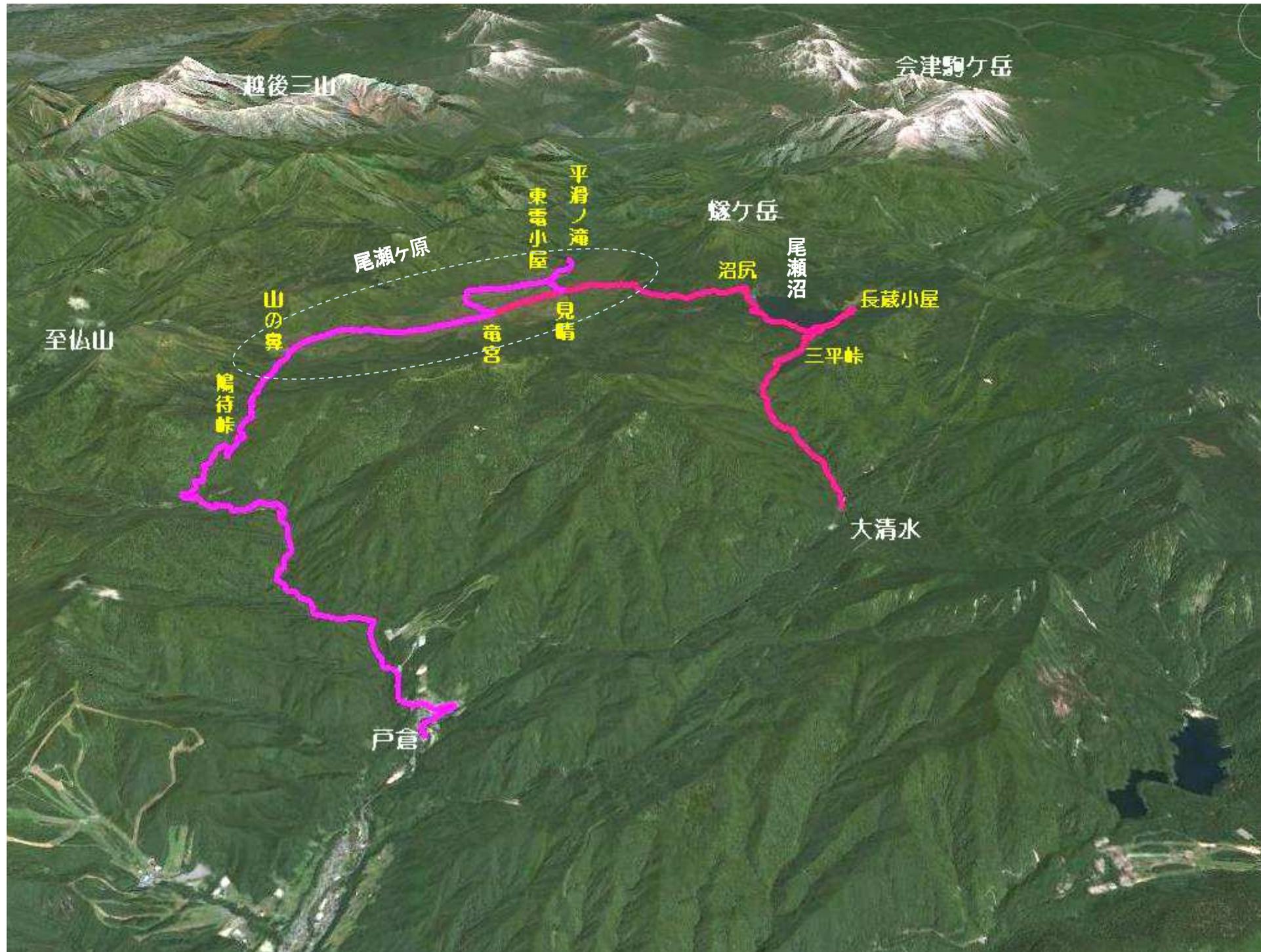


初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 2013.6.16.&17.

東京へ出かけた機会に久しぶりに水芭蕉が見たくなって尾瀬へいってきました。
水芭蕉の季節にはちょっと遅かったのですが、梅雨時ながらラッキーなことに晴天に恵まれ、水芭蕉をはじめ、湿原に咲く初夏の数多くの草花に出会えました。

また、念願の尾瀬ヶ原の中での小屋泊 ビールを飲みながらの夕景・朝もやの中刻々と変化する尾瀬の景色 尾瀬の中でのゆっくりとした時間もすごせて、満足の尾瀬歩きでした







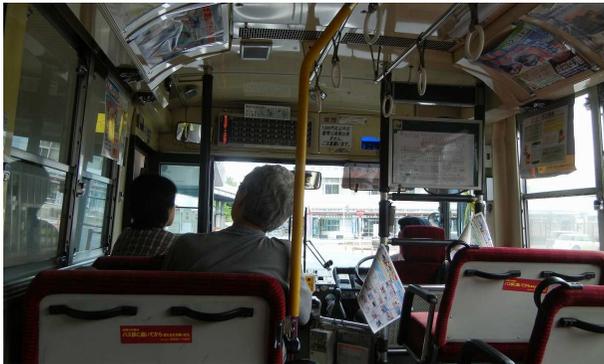
東京での会で久しぶりに出かけた関東 時期的にはちょっと遅いのですが、尾瀬の水芭蕉が見たくなって、6月16日未明 土砂降りの東京から上越新幹線「Maxたにがわ」で尾瀬への群馬側の入口 沼田・上毛高原へ高崎を過ぎると上越国境には青空もみえる 以前同じような天候で尾瀬に入ると快晴だった 今日はずッキーと



上越新幹線 トンネルを抜けると 上毛高原駅付近 車窓から眺める水上・沼田側 雲が切れて明るい



上越新幹線 上毛高原駅の朝 シーズンの日曜日早朝とはいえ、静かなもの 2013.6.16.



梅雨とはいえ尾瀬は観光シーズン バスに乗れるかと心配でしたが、降り立った上毛高原駅・バスで通過した沼田駅も静かなもの
尾瀬の群馬側登山口 片品村の戸倉や大清水まで ここからまだ約2時間もかかる。
いずれも同じであるが、ツアーや登山客の多くは東京から直接登山口へ高速バス・ツアーバスやマイカーで向かう



上毛高原駅からバスで利根川に合流する片品川沿いの谷間を約2時間 遡って片品村戸倉鳩待峠バス連絡所へ

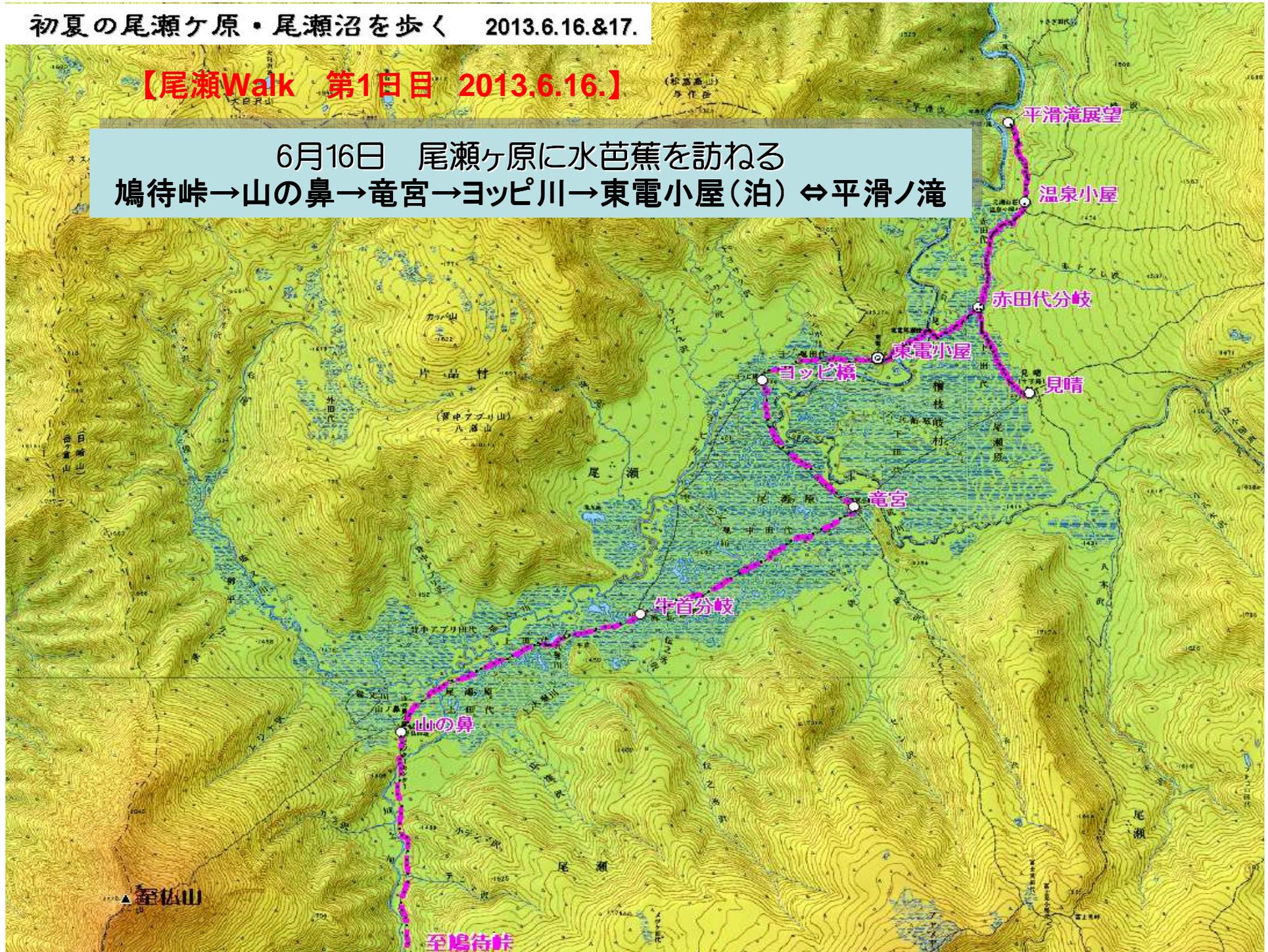


尾瀬への群馬側登山口のひとつ「大清水」へは バスでさらに東へ15分遡る 金精峠を越えて日光へ向かう街道筋。
現在多くの人が向かう鳩待峠は 群馬から尾瀬を経て会津へ向かう古くからの沼田街道の峠道
小型バスに乗換えて北へ約20分ほどである。
尾瀬の自然保護のため現在車道は鳩待峠でストップ 一般車の鳩待峠への通行も遮断されている。
天候も回復してきたので、尾瀬をゆっくり楽しめそうなので、尾瀬ヶ原東電小屋の宿泊を予約し、鳩待峠へ

初夏の尾瀬ヶ原・尾瀬沼を歩く 2013.6.16.&17.

【尾瀬Walk 第1日目 2013.6.16.】

6月16日 尾瀬ヶ原に水芭蕉を訪ねる
鳩待峠→山の鼻→竜宮→ヨツピ川→東電小屋(泊) ⇔ 平滑ノ滝



尾瀬への群馬側登山口 鳩待峠 2013. 6. 16. 10:45

予想通り駐車場には車・バスそしてツアー客でごったがえしている。木道の登山道も大変……

初夏 尾瀬は一番の観光シーズン 久しぶりに見るごったがえした登山口





行列が続く鳩待峠から尾瀬ヶ原 山の鼻への木道 傍らにシラネアオイの花 2013.6.16.



鳩待峠から尾瀬ヶ原 山の鼻へ 2013.6.16.



木道からは 樹木の間から雪が残る至仏山が見えてくるとまもなく山の鼻

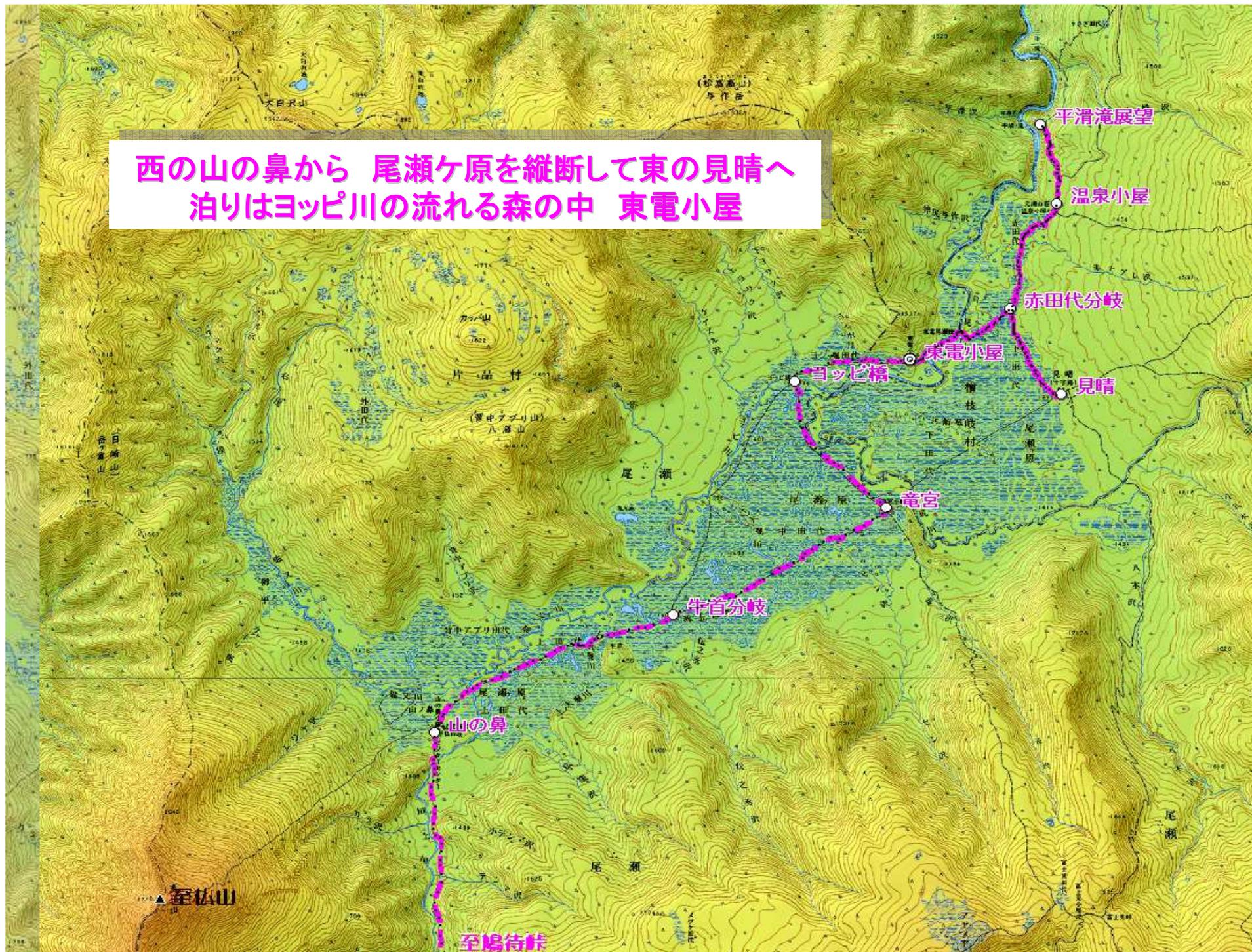


11:28 尾瀬ヶ原の西端 山の鼻 すごい人並み 2013.6.16.



尾瀬ヶ原の西端 山の鼻 2013.6.16.

西の山の鼻から 尾瀬ヶ原を縦断して東の見晴へ
泊りはヨッピー川の流れる森の中 東電小屋





西の至仏山麓《山の鼻》から 東の燧ヶ岳山麓《見晴》へ
11:30 尾瀬ヶ原の真ん中を縦断する木道を行く 2013.6.16.



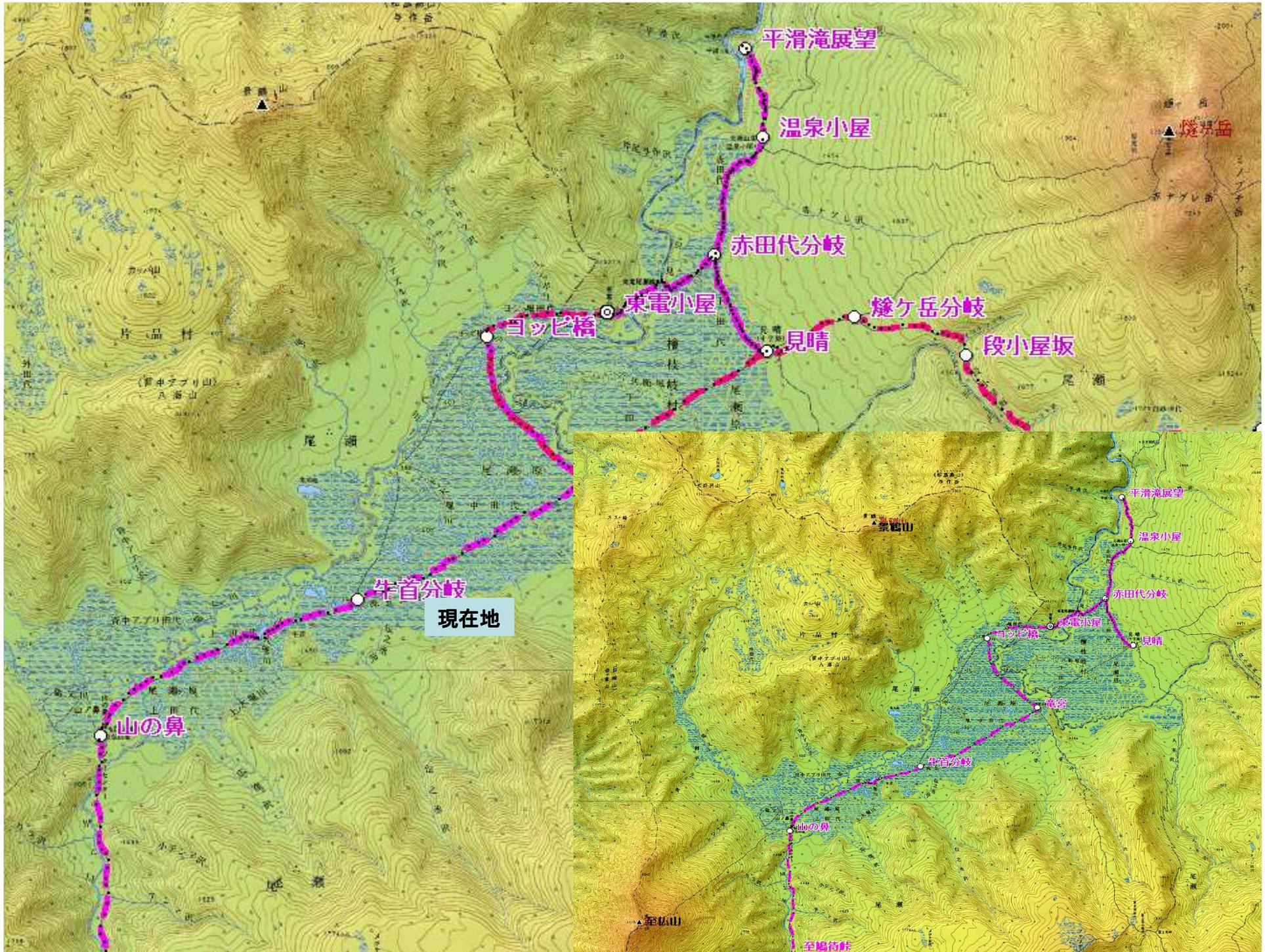
尾瀬ヶ原に入っすぐ 木道両側の湿原に水芭蕉 山の鼻 2013.6.16.



尾瀬ヶ原に入っすぐ 木道両側の湿原に水芭蕉 山の鼻 2013.6.16.

木道は尾瀬を訪れたツアーの人たちが行列で一杯 尾瀬ガイドを先頭に胸や袖に"trapics" "ソニリズム" JTB旅物語"などのワッペンをつけた一団が湿原を行列をなしてゆく スピードが合わないので 右に左に 木道を渡りながら追い越して ゆったりと歩きながら景色を楽しめる位置取りを詩ながら歩く







山の鼻から川上川となって尾瀬を流れ出る川の橋から 尾瀬ヶ原の西端 至仏山と山の鼻



もう盛りは越えましたが 水芭蕉が 川沿いや湿原に咲いてしました
尾瀬ヶ原 山の鼻周辺で 2013.6.16.



尾瀬ヶ原 山の鼻周辺 水芭蕉の群生地で 2013.6.16.





橋を渡ると正面の燧ヶ岳まで 池塘・湿原が広がる広大な尾瀬ヶ原の中をまっすぐ木道が伸びている

尾瀬ヶ原 上田代 2013.6.16.



11:50 尾瀬ヶ原 上田代 2013.6.16.





尾瀬ヶ原 上田代 2013.6.16.



タテヤマリンドウ



レンゲツツジ



ヒメシャクナゲ



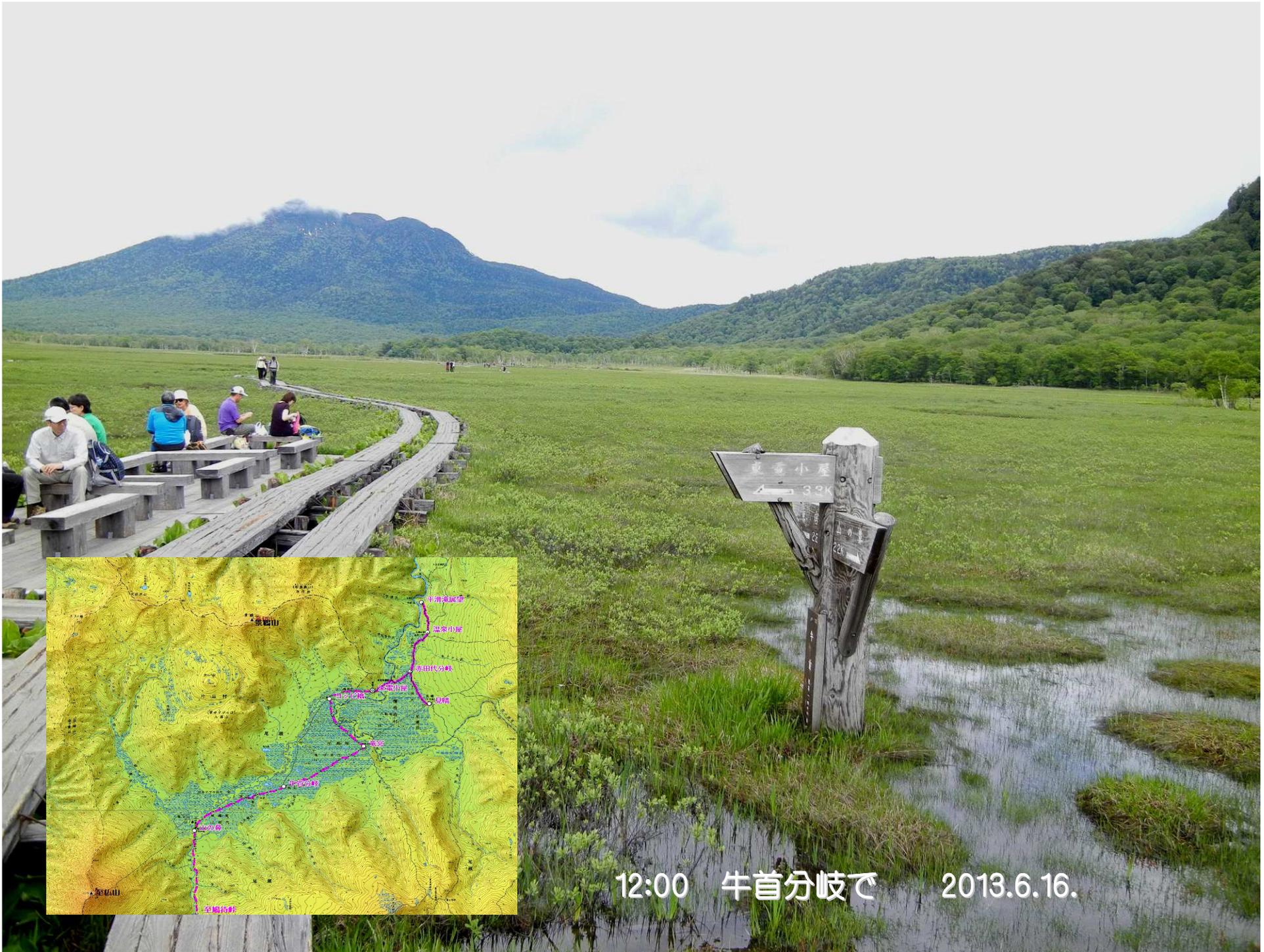
正面の燧ヶ岳に向かって 尾瀬ヶ原 上田代を行く 2013.6.16.



尾瀬ヶ原 上田代より 振り返って 残雪の至仏山を眺める 2013.6.16.



東から 山鼻へ向かう人の列 尾瀬ヶ原 上田代で 2013.6.16.



12:00 牛首分岐で 2013.6.16.



ヨッピー川が流れる尾瀬ヶ原の西側 景鶴山が中央に見える山裾 2013.6.16.



左から尾瀬ヶ原の中央へ頭を突き出す牛首 牛首分岐より 2013.6.16.



尾瀬ヶ原のほぼ中央 牛首分岐周辺 池塘に姿を映す燧ヶ岳 2013.6.16.



水芭蕉の有名な群生地 中田代 大堀川周辺 2013.6.16.



水芭蕉の有名な群生地 中田代 下ノ大堀川周辺 2013.6.16.

水芭蕉の盛りも終わり、一面大きく育った葉ばかりの群落になっていました



上ノ大堀川水芭蕉群生地で 2013.6.16. 有名な水芭蕉群生地も今は葉ばかり
でも2年前の大水で尾瀬ヶ原が水浸しで大量の砂が入って植生も大きく変わったと聞いて 心配していましたが、
ほぼ同じ水芭蕉群生地の景色が見られて安堵



水芭蕉は盛りを過ぎていましたが、レンゲツツジほか 今が盛りの花が数々
湿原歩きを楽しませてくれる



レンゲツツジ



タテヤマリンドウ



レンゲツツジ



ヒメシャクナゲ



水芭蕉



タテヤマリンボウ



ワタスゲ



オゼタイゲキ



ヒメシャクナゲ



チングルマ







13:00 《竜宮》の伏流口 2013.6.16.
左右の川の合流点ですが、ここで川は地下にもぐり(伏流)、
木道の反対側一帯の湿原に噴出す「竜宮」の地名のいわれだと





《竜宮》の伏流口 2013.6.16.

左右の川の合流点ですが、ここで川は地下にもぐり、木道の反対側一帯の湿原に湧出す
竜宮の地名のいわれだと



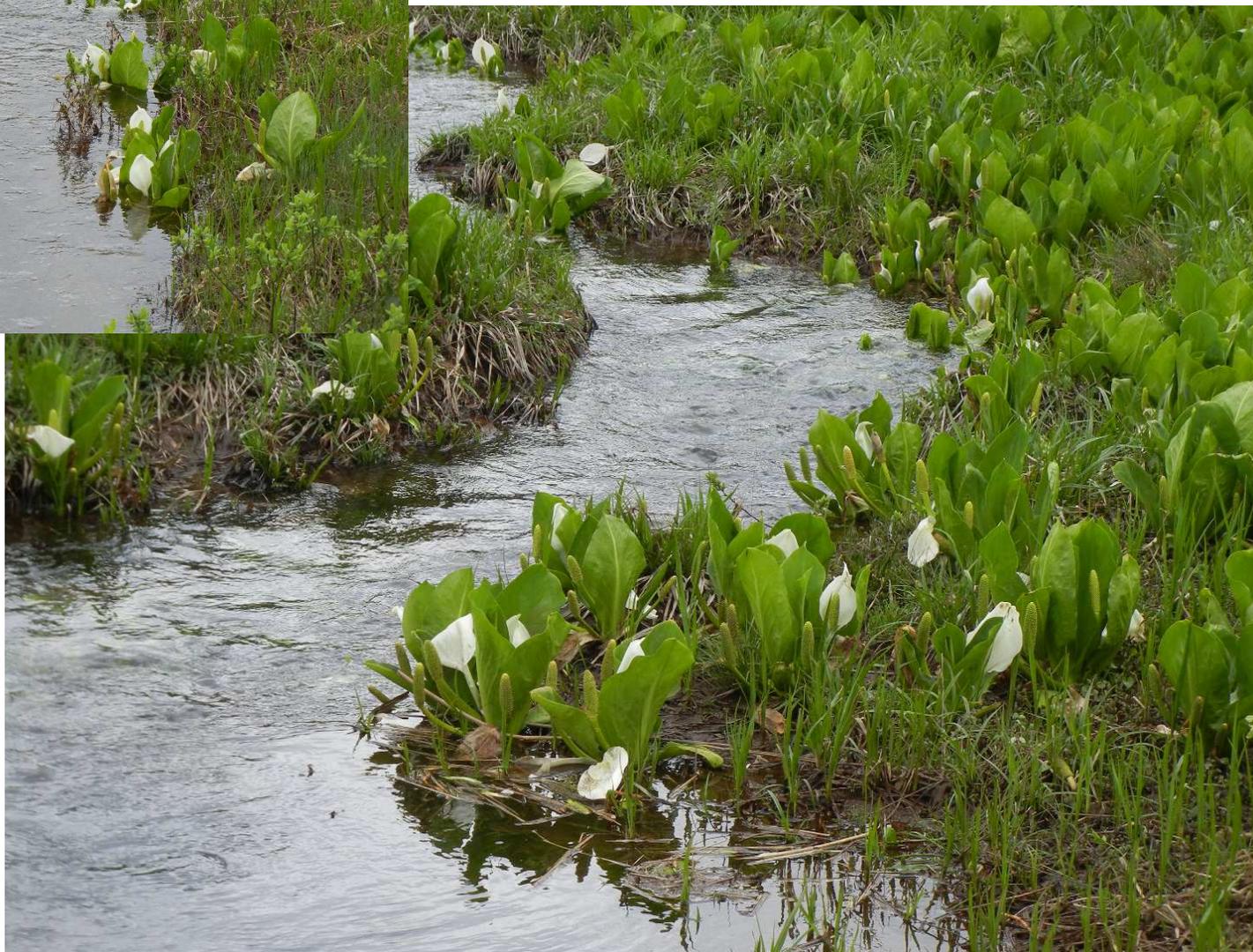
左右の川の合流点 《竜宮》の吸込み口

2013.6.16.



《竜宮》木道の反対側の湧出口側 2013.6.16.
木道の北側で水が湧き出し、川となっている

中田代 竜宮周辺 の水芭蕉
2013.6.16.



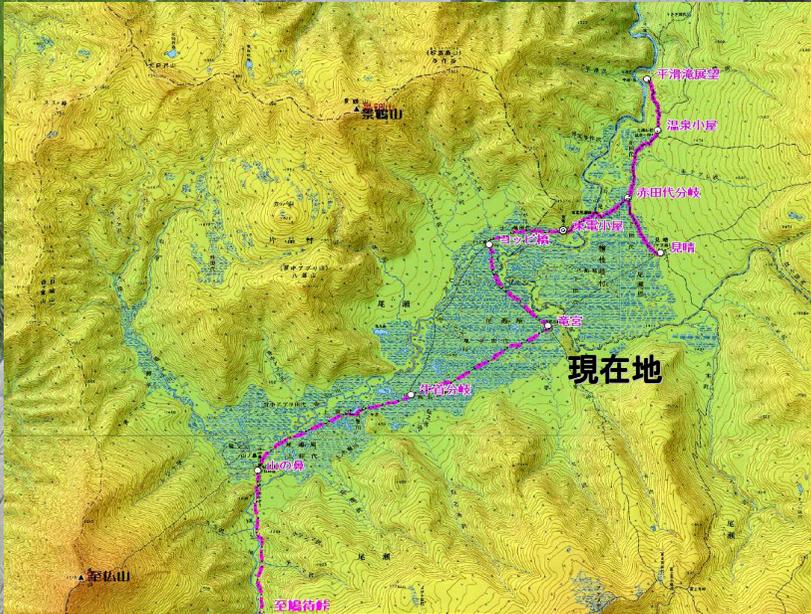


竜宮十字路周辺 2013.6.15.





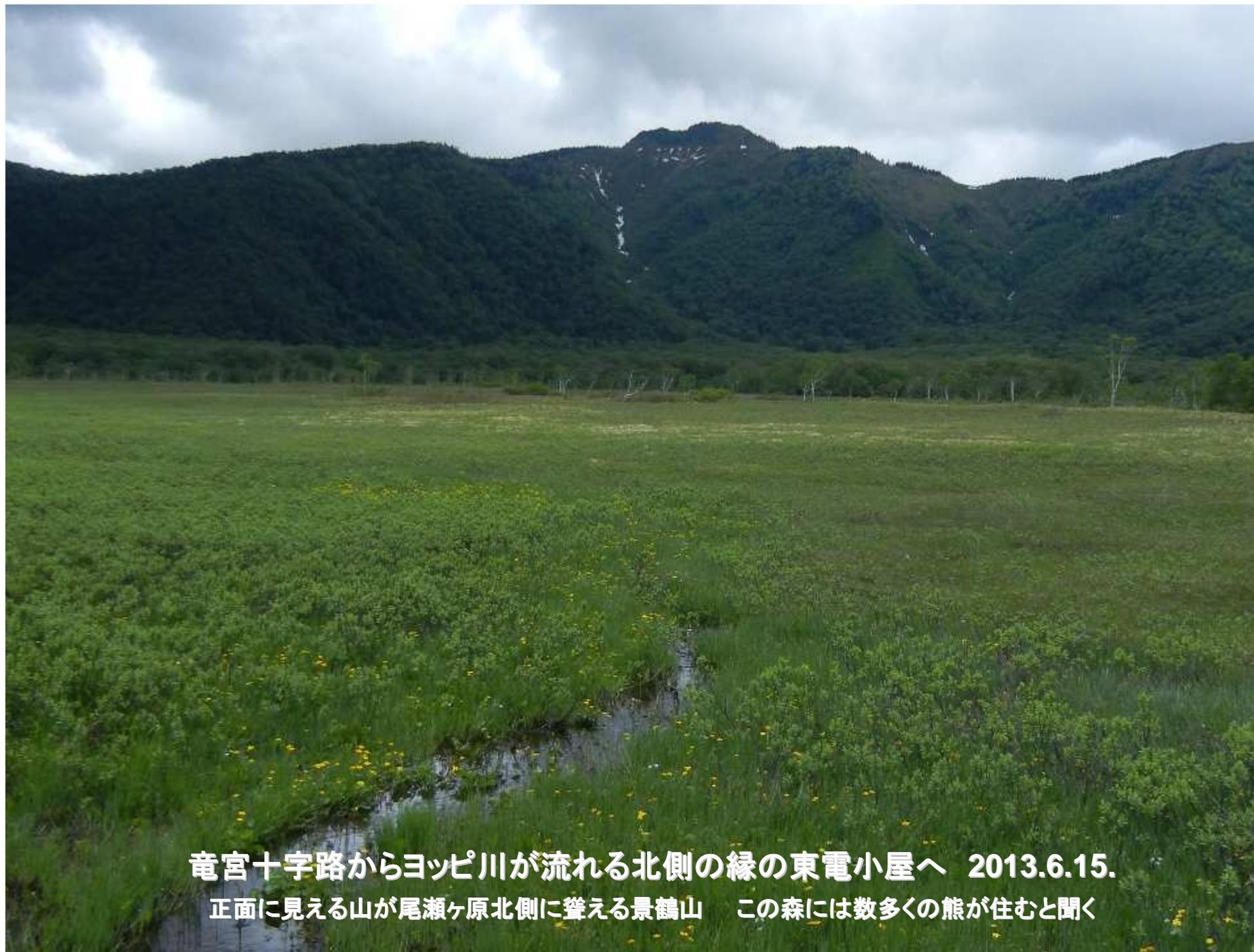
竜宮十字路周辺 2013.6.15.
向こうの林の中に建つ竜宮小屋が見える





竜宮十字路からヨッピー川が流れる北側の縁の東電小屋へ 2013.6.15.



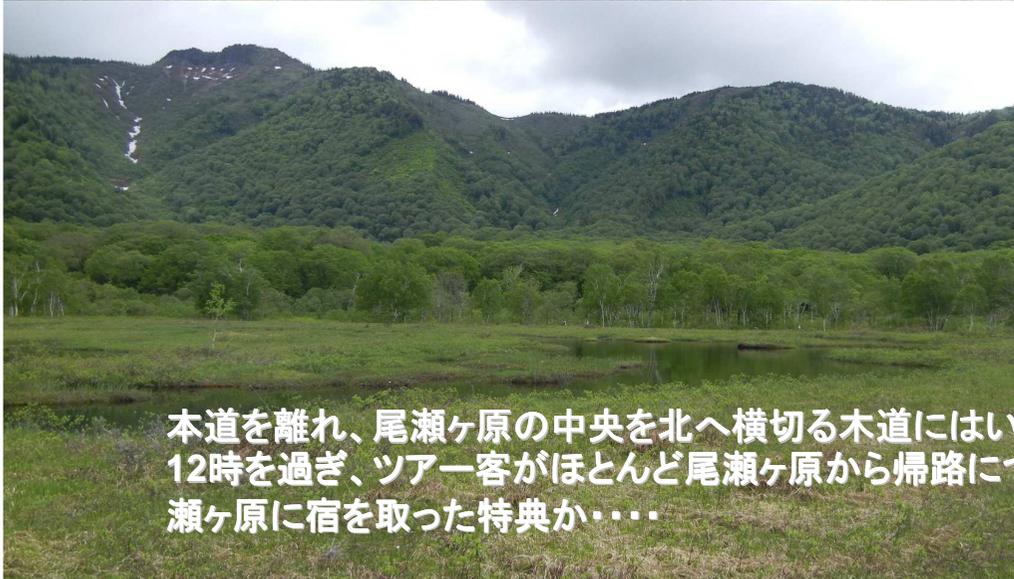


竜宮十字路からヨッピー川が流れる北側の縁の東電小屋へ 2013.6.15.

正面に見える山が尾瀬ヶ原北側に聳える景鶴山 この森には数多くの熊が住むと聞く



竜宮十字路周辺の湿原の草花が美しい 2013.6.15.



本道を離れ、尾瀬ヶ原の中央を北へ横切る木道にはいると静寂そのもの
12時を過ぎ、ツアー客がほとんど尾瀬ヶ原から帰路について 静かな尾瀬がゆっくり楽しめる 尾
瀬ヶ原に宿を取った特典か……





ヨッピー橋の袂で牛首からヨッピー川に沿って尾瀬ヶ原の北縁の道に合流する



13:44 ヨツピ橋 2013.6.16.

この周辺の森には熊が数多く生息。鐘や注意の案内板が木道脇に幾つも設置されている









樹林を抜けるとヨシツ掘田代の湿原 ここにも水芭蕉が咲いていました 2013.6.16.





木道の所々高くなった橋になっている 人と熊が遭遇しないための熊の通り道とのこと 2013.6.16.



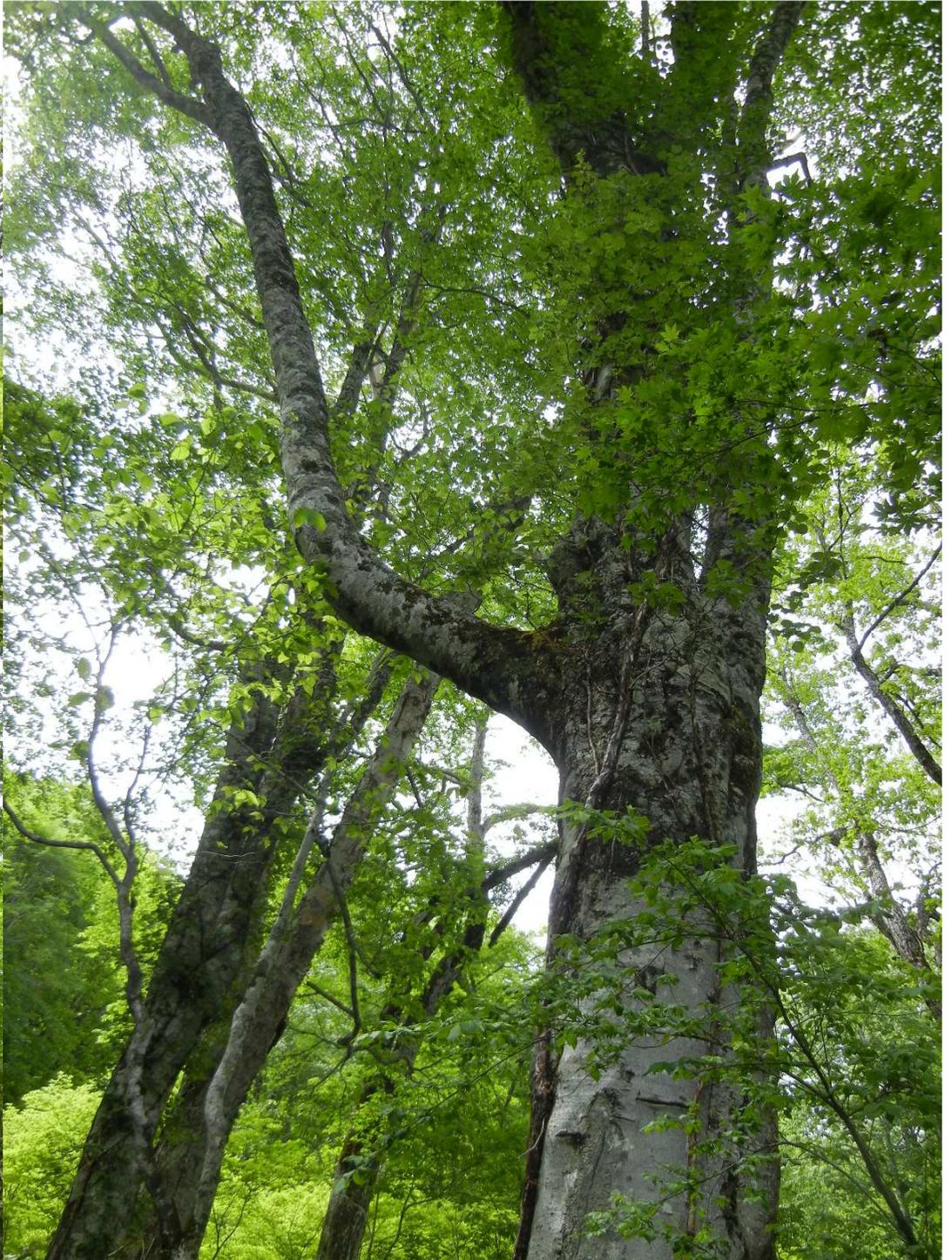
田代の向こうに雲のかかった燧ヶ岳を背に今夜の宿 東電小屋の建物が樹林の中にみえる 2013.6.16.

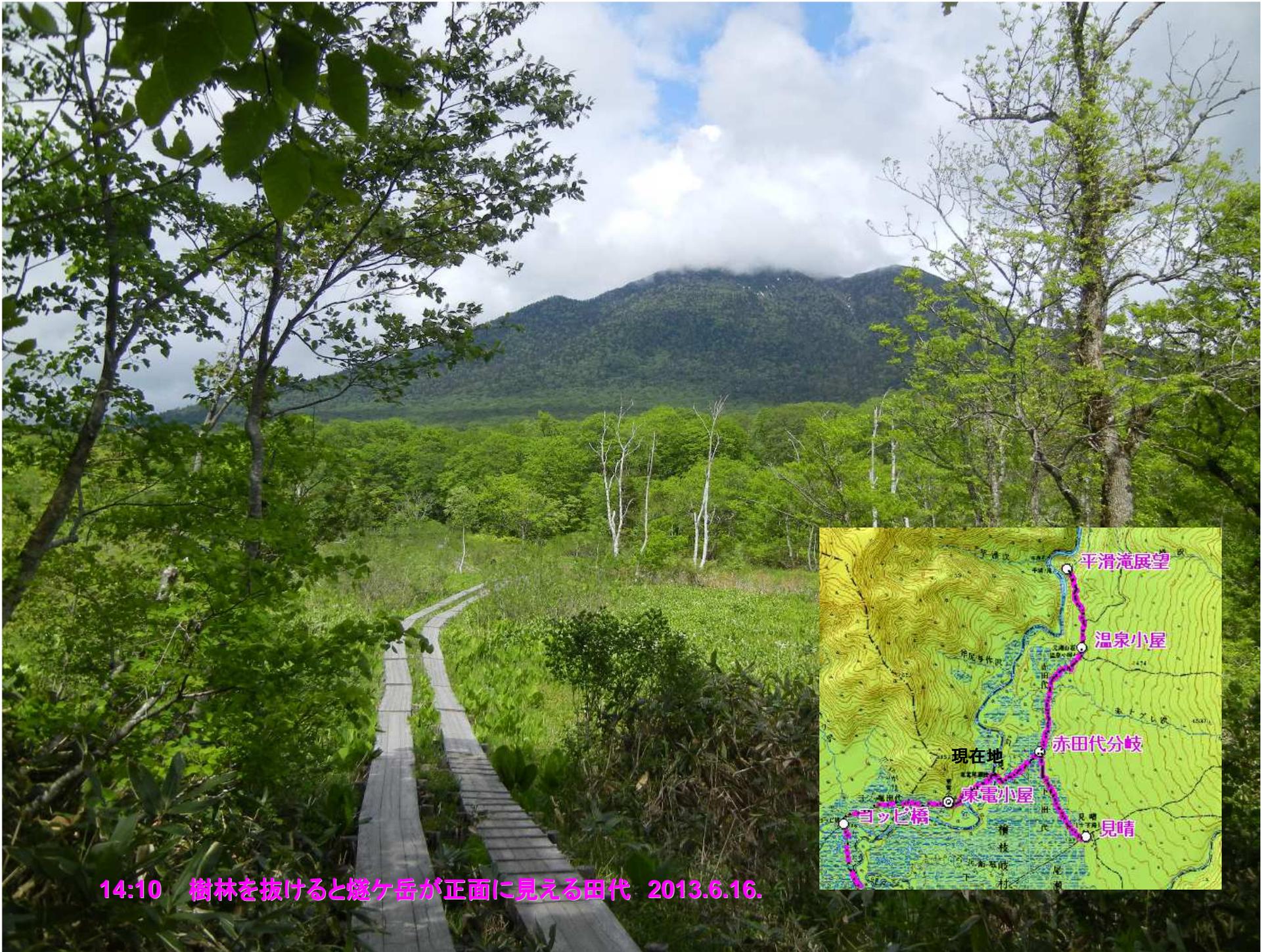


14:00 尾瀬ヶ原北縁 景鶴山の麓の樹林の中にある東電小屋 2013.6.16.







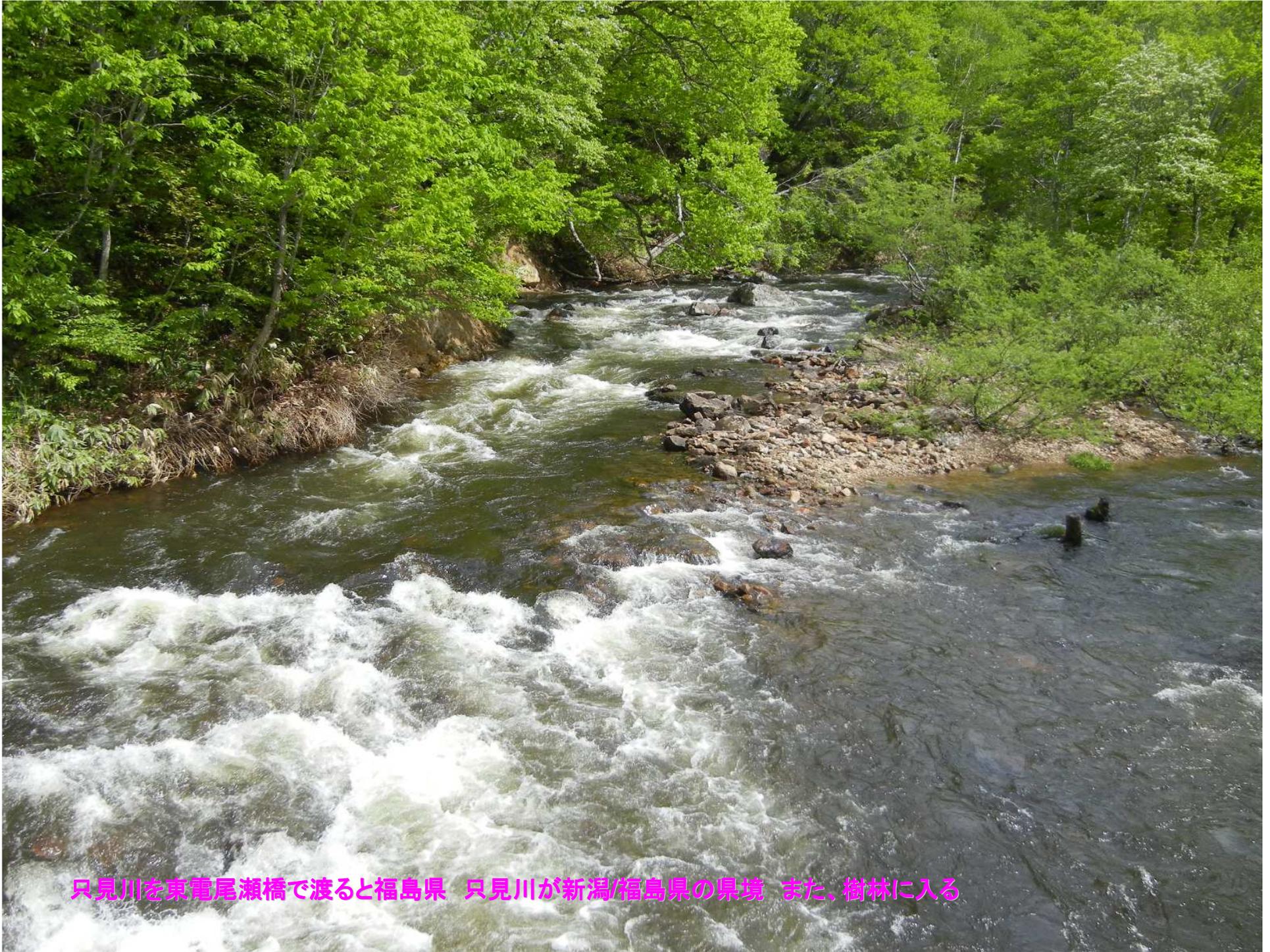


14:10 樹林を抜けると燧ヶ岳が正面に見える田代 2013.6.16.





ヨッピ橋で只見川と名前を変えた只見川が流れ下るこの周辺は、新潟・福島・群馬 3県が入り混じる。新潟県と福島県の県境 東電尾瀬橋を渡ると福島県 また、樹林に入る



只見川を東電尾瀬橋で渡ると福島県 只見川が新潟/福島県の県境 また、樹林に入る



川向こうは東電小屋のある新潟県 手前は福島県



↓只見川 新潟 / 福島県境

(赤田代T分岐)

温泉小屋・三条の滝へ← ↓ →見晴へ

背後に燧ヶ岳

(尾瀬ヶ原 下田代)

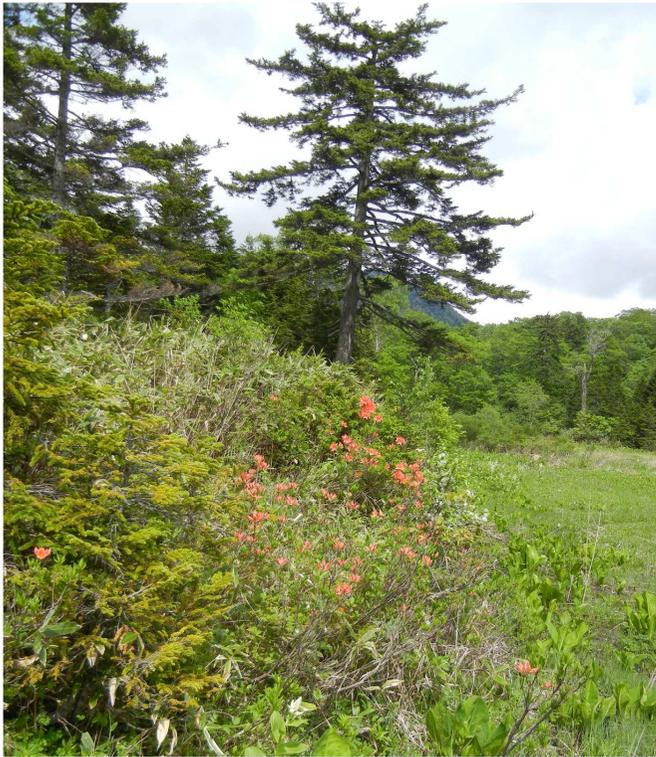
↓見晴



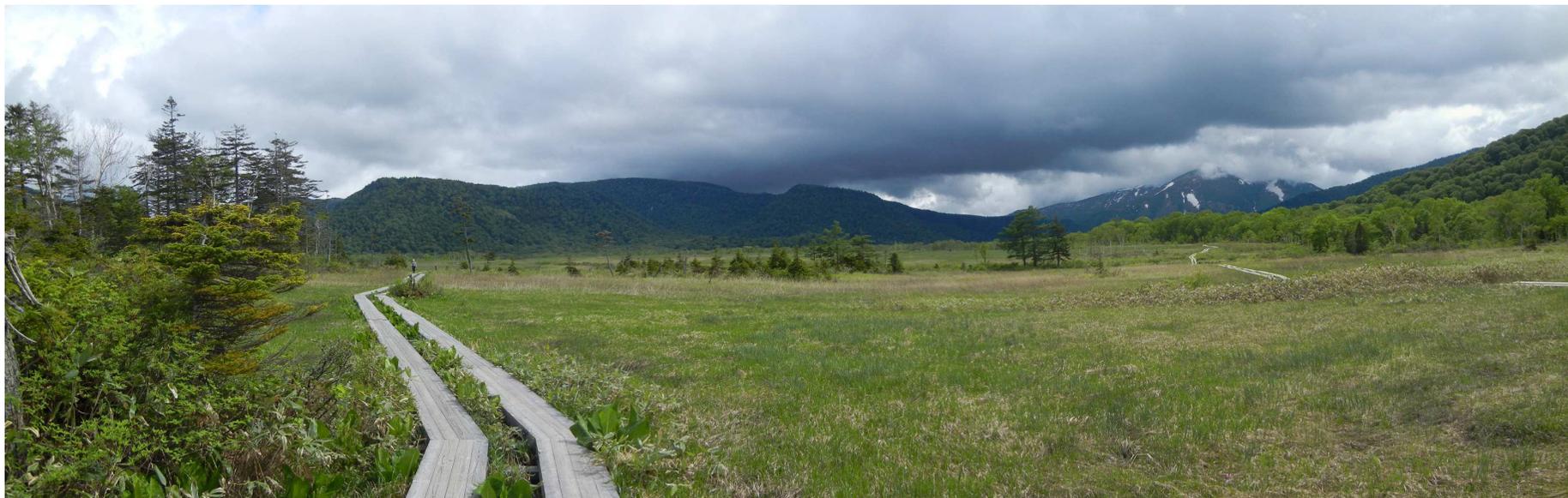
赤田代 T分岐



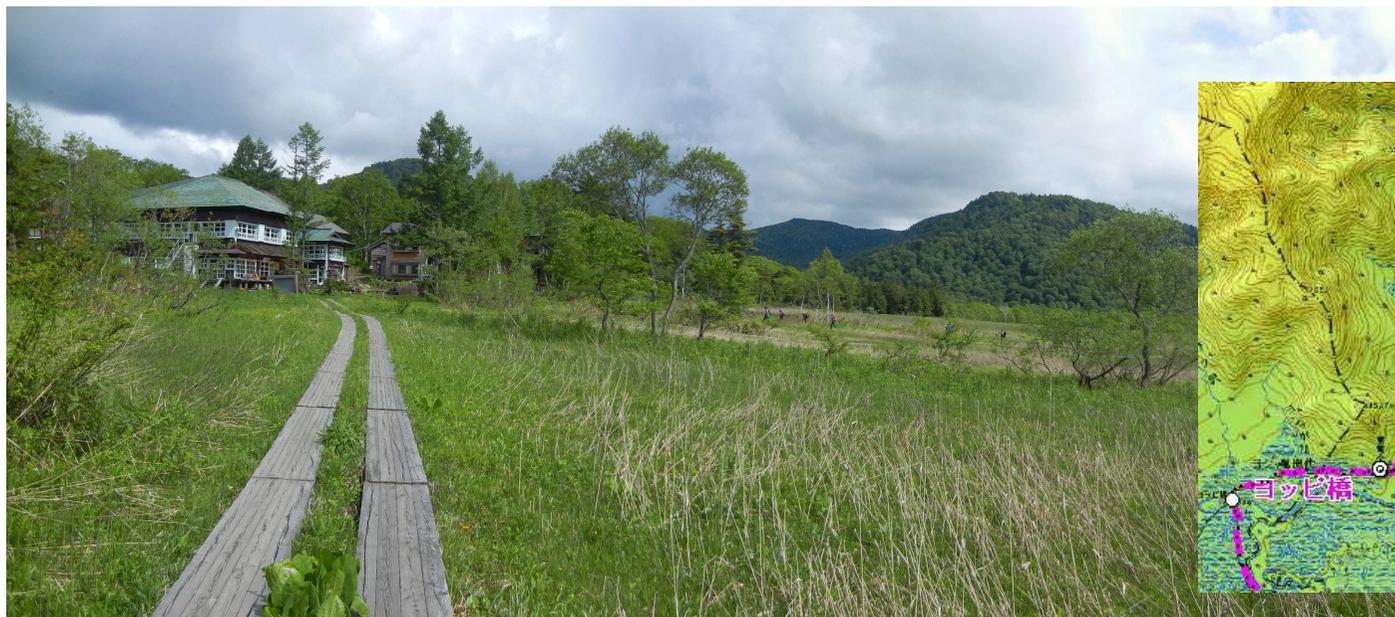
尾瀬ヶ原の東の端 見晴



14:22 T分岐を右へ 見晴尾瀬ヶ原を右手に 見晴へ 2013.6.16.



下田代の向こうに 尾瀬ヶ原全体がみわたせ、右端に残雪の至仏山も見える



正面に見晴の建物がみえてきた 2013.6.16.



山小屋が立ち並ぶ尾瀬ヶ原の東端〈見晴〉 この奥へ燧ヶ岳・尾瀬沼への道が続く



見晴から 西に広がる尾瀬ヶ原全体を眺める 2013.6.16.

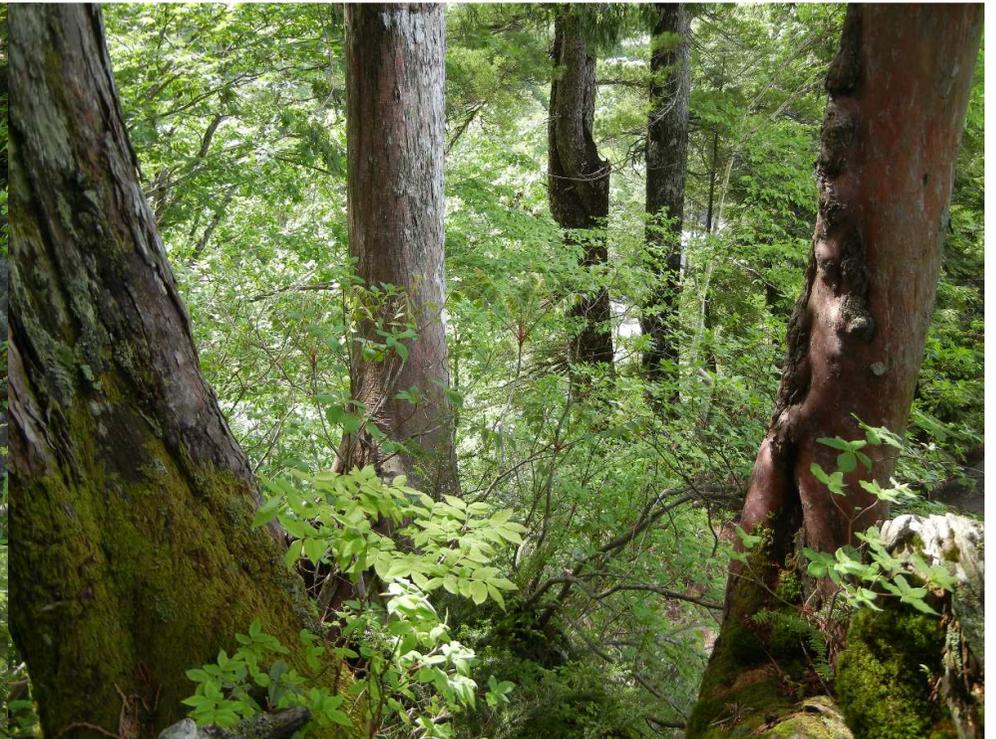


14:40 見晴から 西に広がる尾瀬ヶ原・至仏岳の眺望 2013.6.16.





温泉小屋の横を通り抜けると谷沿い山腹の厳しい崖道を下る 2013.6.16.



はるか下を轟音を響かせ、流れ下る川をちらちら眺めながら厳しい下りが続く



川幅一杯を 白濁した水が轟音を響かせ、流れ下る平滑ノ滝遠望 2013.6.16.



15:17 川幅一杯を 白濁した水が轟音を響かせ、流れ下る平滑ノ滝遠望 2013.6.16.

どこか川が見える位置を探していただきましたが、掃りが大変なので ここでストップ 元来た道を引き返す。





帰路 温泉小屋周辺から眺めた赤田代 2013.6.16.

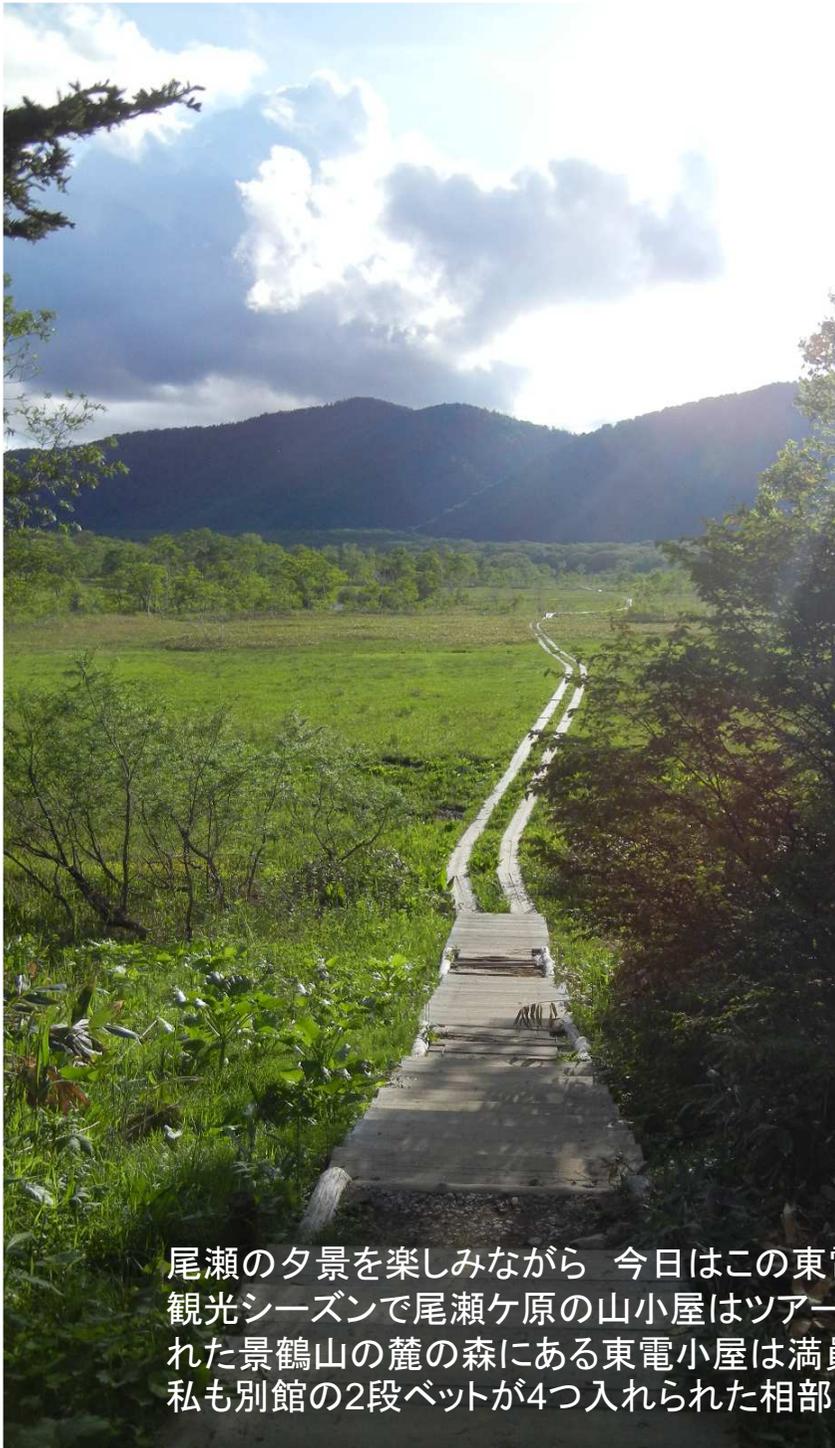


15:40 約2時間30分ほどの散策からもどって、小屋に入って風呂へ
小屋の前のベンチに座ってビールを飲みながら、尾瀬か原の夕景を楽しむ
一度やりたかった小屋泊りのゆったりとした夕方の楽しみ 実現です





小屋の前で 刻々変化して暮れゆく尾瀬の夕景を楽しむ



尾瀬の夕景を楽しみながら 今日はこの東電小屋で一泊
観光シーズンで尾瀬ヶ原の山小屋はツアー客で満杯でござるがえしているが、尾瀬ヶ原の本道から外
れた景鶴山の麓の森にある東電小屋は満員ではあるが、静かなもの。
私も別館の2段ベットが4つ入れられた相部屋ながら 宿泊は和一人の個室が確保できました。